

朝日求人 26面~28面

企画・制作 朝日新聞社広告局



宮崎 哲弥

お問い合わせ先: 広告第5部 ☎03-5540-7773 (受付時間: 月~金 9:30AM~5:30PM (祝日除く)) 朝日求人ウェブ <http://www.asahi.com/job/>

朝日求人

仕事力

「壊されることを
楽しめ」宮崎哲弥が語る仕事 1234
この読み物は、一部、掲載されない地域もあります。

「端的な答え」に逃げ込まない

誰もあなたのための
答えを持っていない

あてがわれたライフコース・プランが無効化したいま、就職という転機に「自分探し」というモチーフが頭をもたげてくるのは、ある意味で当然のことです。

しかし「自分探し」には大きな落とし穴がある。これは最近のスピリチュアルブームの背景とも通じているんですが、いくら頭で考えをめぐらしても端的な答えなんか出ないということ。です。「自分探し」は確かに人生の太玉もかもしれないが、そうであるが故に簡単に答えなんか出ない。ということとは、目前の課題である就職の動機づけとしては不適当ですね。

人生は複雑です。人生の原因と結果はいつも曖昧な糸で結ばれている。それなのにちよっとした歯車の狂いから急激に暗転するし、逆にタナボタの幸運に恵まれたりもする。世間的な成功とか、失敗とかは、たまたま「そこ」に居合わせただけで、自分とは何の関係もないのではないのか。必然性なんて何も無いのではないのか。そう思うこともしばしばあります。

本当は、自分のアクション(行動)をも含む、すべての相互作用(インタラクション)によって決定されるというのがおおよその事実なのですが、それでも主観の側に焦点を絞ると、そういう世界も何だかよそよそしいものにも感じられるわけです。

「私とは一体誰なのか。誰もこの問いに答えられる者はいません。答えられるという癖はすべてベテナーの類だと思っただけで、あなたという現実」を経験しているのはあなただけじゃないですか。神様にもわかりっこありません。

本当の私は、あなたは、問いのなかにこそある

あなたは、もう逃れようもない現実としてここにあるのです。まずこれを認めましょう。

それでもなお人が「私とは一体誰なのか」と問うてしまふのはなぜか? この問いにおける「私」とは、さきいった、あなた自身にとつての私じやなくて、周りの親しい人々にとつての、まだ見知らぬ誰かにとつての、かけがえないあなたにとつての「私」だからです。

彼ら、もろもろの人々の目に映った「私」だからです。社会はいろいろな関係性に分解できます。そしてネットワークの結びつきは無辺です。「私」はそのネットワークのただなかに見いだされるものであり、最初からあなたの内にあるものではありません。

就職は答えではなく、「いまは何者でもないものが、『私』という答えを得る」ための一つのステップでしょう。もちろん仕事の世界における関係が「私」というコスモスのすべてを規定するものではありません。しかし、そのコスモスを豊かにする要素の一つであることは間違いない。仕事の世界で、あなたがどんなヒトやモノやコトとも出会い、どんな新たな関係を紡ぎ出し、その都度「私」という暫定の答えを出していけるか。最後に強調しておきたいのは、大切なのは答えではないということ。究極の、端的な答えなどありません。不変の「私」が実在しないことと同じです。社会が「名のみ」のものであることと同じです。本当の私は「本当のあなたは、問いのなかにこそある。それを忘れないで欲しい。」(談)

みやざき・てつや ●評論家。1962年福岡県生まれ。慶応義塾大学文学部社会科学部卒業。同法学部中退。政治哲学、宗教思想を主領域とする評論活動を行う。テレビ出演多数。主な著書に「新書365冊」(朝日新聞)、「1冊で1000冊読めるスーパーブックガイド」(新潮社)、「少年をいかに育てるか」(講談社+α文庫)、「愛国の方程式」(PHP研究所)など。